



## 学校教育目標 **自主 友愛 鍛錬** 教師も生徒も伸びる学校

### ＜秋の読書週間(10/23～10/27)＞ ～職員「読み聞かせ」を行いました～

本校では、読書に親しみ、生活習慣の一つにしてもらいたいと願い、朝の会が始まる前の10分間を「朝読書」の時間としています。また、春と秋に読書週間を設け、読書への興味・関心や進んで読書をする意欲を高めるための取組を行っています。秋の読書週間が終わりましたが、この期間に担任以外の職員が学級に出向き、生徒に「読み聞かせ」をするという取組を行いました。私は3年生担当なのですが、朝読書の時間を使って行うので、話が短く、分かりやすい絵本を選びました。小学校低学年向けの昔話だったので、簡単すぎてつまらない表情をする生徒が多いのではないかと心配はありましたが、全員が真剣に、ニコニコしながら聞いてくれたのでうれしかったです。授業中の様子からも言えることですが、3年生だけに限らず、どの学年の生徒も「話し手の話をしっかりと聞く姿勢」が身につけていることを感じています。さらに、この力を伸ばしていきたいです。



読書にはメリットがたくさんあります。知識が増えるだけでなく、集中力や想像力、読解力などが高まり、コミュニケーション能力の向上にも役立ちます。情報化やデジタル化の進歩に伴って、紙面の文字を読む機会が少なくなっていくかも知れませんが、読書のよさをまわりの人に勧め、自らも時間を見つけて読書をしていきたいと思っています。

### ＜働き方改革に向けた取組＞ ～本校は「時間差勤務」を取り入れています～

現在、「働き方改革」という言葉が社会生活に浸透していますが、「働き手が個々の事情に応じて多様な働き方を選択できるようにすることで、働き手の能力や意欲、労働力や労働生産性の向上を図ること」をねらいとした国の施策です。この改革はあらゆる職場に求められており、学校現場においても試行錯誤しながら取り組んでいるところです。新聞記事やテレビのニュース等で報じられているので、ご存じの方もと思いますが、学校現場で働き方改革を推進する上での一番の課題は「長時間勤務の解消」です。授業を受け持つ学校職員は、勤務時間は決ま



っているものの、授業の準備や学級の事務処理等の仕事に費やせる時間は少ないです。それ故に、勤務時間外まで仕事を行うことが常態化してしまい、さらには仕事を家に持ち帰ったり、休日出勤して行ったりということが出てきてしまいます。本校では、そのような状況を改善するための第一歩として「時間差勤務」を取り入れ、行ってきています。多くの職場でフレキシブルな勤務形態が活用されていますが、本校では、「毎週水曜日の『NO部活動デー』を活用し、上限を60分とし、早く勤務を開始すれば早く退勤できる（早出勤務）」「長期休業中の出勤日は、上限を120分とし、早く退勤したり、遅く出勤したりできる（早出勤務・遅出勤務）」という勤務形態をとっています。この取組が、職員のストレス解消や長時間勤務の解消、さらには「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と私生活の調和）に大きな効果が表れてくることを期待しています。「学校行事や諸会議の見直し・精選」「職員一人一人の業務削減」「部活動の在り方」等、まだまだ考えたり改善したりしなければならないことはありますが、着実に進めていきたいと思っています。「教職員の仕事はブラックである」というイメージが払拭され、教員になりたいと志望する若い人たちが少しでも増えていくことを願ってやみません。